

## 平成30年度第8回12月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 平成30年12月13日(木) 午前11時

2. 開催の場所 栃木放送本社会議室

3. 委員の出席 委員総数9名  
出席委員6名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	委員	竹内明子
	委員	荒川政利
	委員	河又弘子
	委員	古口 悟
	委員	和田裕二

局側出席者名	代表取締役社長	大塚幹夫
	報道制作局長	川島育郎
	編成部長	大谷佳久
	報道制作部	小暮 智

### 4. 議 題

(1) 「ふるさとネットワーク」について

毎週火・木曜 7:32~7:38

毎週月~水・金曜 17:10~17:15

報道制作部 小暮 智

(2) その他

## 5. 議事内容

### (1) 「ふるさとネットワーク」について

試聴番組：放送した番組を予め試聴。

議題説明：報道制作局小暮が番組の企画・制作内容について説明した。

栃木放送が委嘱しているボランティアのふるさとリポーターに電話で地域の話題や活動を伝えてもらう。放送や中継でフォローできない地域の細やかな情報を届けることが出来る。災害時には現地の状況などを伝えてもらうことにも役立っている。単純なイベント案内やPRになること、地域が偏らないことなどに注意しているなど番組コンセプトを説明して審議に入る。

各委員からは、

- 地域の情景が浮かぶような伝え方はないか、マンネリにならないかなど課題はまだあると思う。
- 話し方や内容など出演する人によって差がある。災害にも対応しているのは素晴らしい。今後も活用してもらいたい。県内のドラマや映画の撮影地を案内するなど風景がわかるようなものがあると良い。
- ふるさとネットワークというタイトルなので、ほっこりしたり素朴なところが出るともっと良い番組になる。人と人のつながりや風景がわかると良い。イベントの紹介になっている方もいるので工夫してほしい。今以上に若いリポーターを増やすなど若い方にも目を向けるともっと良い。
- リポーターによってばらつきが出るのは致し方ないと思うが、地域ならではの話題が引き出せると良い。アナウンサーとの相性もあるようだが、引き出し方の工夫が必要と感じる。
- 災害の訓練を兼ねているのはとても重要と感じる。若い世代をもっと増やしてほしい。スポンサーがない分気軽に聴くことが出来る。イベントの説明がわかりづらく聴きづらい。リポーターは素人なのでアナウンサーの引き出し方、聴き方が問われてしまう。地域の雰囲気によりわかる放送になると良い。
- 話し方で気になるアナウンサーがいた。どの地域の話か分からないところがあつたので、風景などイメージや地名などがわかるようなことがあると良い。音楽があると良いのではないか。
- 県内の出身だけでなく、県外から来た方にレポートもらうなど、外から見たり感じた視点もあると良い。地元ではわからない視点も大切だと思う。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 社の番組「栃木放送からのお知らせ」  
(平成30年12月30日(日) 午前8時5分放送)
- ② 社のホームページに掲載(平成30年12月30日～)
- ③ 社事務局に議事録備え置き(平成30年12月30日～)

以上